

## 訪問看護師への感染予防教育手法の検討

### S 県全訪問看護ステーションへのアンケート結果より

立花亜紀子<sup>1)</sup> 印田宏子<sup>2)</sup> 田中富士美<sup>3)</sup> 郡司篤晃<sup>4)</sup>

1) 聖学院大学大学院人間福祉学研究科修士課程

2) NPO 法人 HAICS 研究会 千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程

3) さいたま市立病院 感染管理室

4) 聖学院大学大学院人間福祉学研究科

【要旨】訪問看護師が実施する侵襲的なケア・処置は感染管理上重要なものが多い。訪問看護師の感染予防対策の実践状況、感染予防教育の過去の受講内容と今後の要望に関する調査結果をもとに、教育手法を検討し実施ツールを立案した。

【目的】在宅ケアにおいて訪問看護師が実施するケア・処置には、種々のカテーテル管理など感染管理上重要なものが多い。しかし訪問看護師は感染予防対策に関する教育を受ける機会が少なく、感染予防対策は十分であるのかといった懸念を感じた。そこで訪問看護師に必要な感染予防教育手法を明らかにすることを目的に、訪問看護師の感染予防対策の実践状況、感染予防教育の過去の受講内容と今後の要望を調査した。その結果に基づいて、訪問看護師のための感染予防教育手法を検討し実施ツールを立案した。

【方法】①対象：S 県下の訪問看護ステーション 204 箇所勤務する全看護師 1155 名②調査方法：質問紙を用いた自記式・郵送調査とし、感染予防対策の実践状況、感染予防教育の受講内容と要望について調査した。③調査期間：2007 年 7 月～9 月④調査結果をもとに訪問看護師の感染予防教育手法を検討する。

#### 【倫理的配慮】

聖学院大学大学院倫理委員会における審査後に実施した。

【結果】質問紙は回収率 43%、有効回答率 39%であった。感染予防対策の実践状況では、知識はあっても在宅ケアの環境の中で実施が難しいといった問題もあることが示唆された。アンケート回答者の半数が過去に何

らかの感染に関する教育を受けていた。これは、在宅ケアにおける内容に限定されたものではなく、病院等全般的な感染予防教育が予測される。今後受講を希望する感染予防教育の内容としては、感染予防対策を含めたケアの実践方法にニーズが高いことが分かった。このことから、在宅ケアの特徴を踏まえた感染予防に主眼を置いた教育の必要性を感じた。

【考察】1) 訪問看護師が、与えられた状況に応じた感染予防対策を実施するための知識の提供が必要である。

2) 在宅ケアを利用する人は、すべてが患者ではないため、感染を起こさないことに視点をおき、標準的な予防策を基本とした実践のケアにおける感染防止技術を具体的に解説したテキスト、研修会が必要である。

本研究は財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受け実施している。